



感じてみよう！ 身近な自然

虫や鳥などの生き物は山や林の中にしかいないと思っていませんか？
実はどんな街中でもいろいろな生き物たちが暮らしています。
札幌の中心部からほど近い円山動物園でもたくさんの野生動物に出会うことができます。
身近な生き物を観察しに出かけてみましょう！

キンヘリタマムシ

ルイボシカマキリ

ヒトリガ

ニホンアマガエル

エゾリス

【観察のポイント】

- 昼行性か夜行性か、住んでいる場所はどこか、食べ物は何かなど観察したい動物の生態や習性をよく調べてから探しに行くと見つけやすいでしょう
- 目で見て探すだけでなく、耳を澄ませて動物たちの鳴き声をよく聞いてみましょう。たくさんの生き物の気配を感じられるはずです

【注意】円山動物園内では動植物の採集はできません。他にも法律や条例で採集が禁止されている地区や種があります。



昆 虫

春から秋までの間、いたる所で多くの虫たちを見ることができます。クワガタは7~8月、ミズナラやハルニレなどの樹液に集まります。オニヤンマは小川などの流水域の一定区域を何度も往復しメスを探すため、一度見失っても同じ場所で観察を続けてみましょう。セミやバッタの仲間はいろいろな鳴き声で居場所を教えてくれます。



鳥 類

時期によって色々な鳥を観察することができますが、木の葉が落ちる冬は特に鳥たちを見つけるのがいいです。日の出から数時間の早朝の時間帯は、鳥たちが活発で観察もしやすいでしょう。まずは鳴き声をよく聞いて、鳥を探してみてください。肉眼で見つけることができたら双眼鏡で観察してみましょう。教えてくれます。



その他の動物

アオダイショウやニホンカナヘビは、日中の日が当たる時間帯に日向ぼっこをしている様子を見ることができます。ニホンアマガエルは春になると繁殖のため池や水田などに集まり、鳴き声を上げます。エゾリスやエゾタヌキ、キタキツネも身近な動物です。雪が降れば、雪の上にいろいろな動物の足跡を見つけることができるでしょう。

このように私たちが生活する札幌にも多様な生物が暮らしています。ただ「昔はもっと虫がいたのに」と思う人もいるでしょう。森や林が開発で切り開かれたり、捨てられたペットなどの外来種による影響などにより、身近な生き物たちが減ってきているのもまた事実です。虫が減れば、それを食べるカエルやヘビが減り、さらにそれを食べる鳥が減ります。生物の多様性はこのように微妙なバランスで成り立っており、地球上で生き、自然の恩恵を受けている私たち人間もその生物多様性の一部です。私たちの行動一つでもしかすると一つの生き物が絶滅してしまうかもしれません。まずは身近な自然や生き物に触れてみてください。そして、ペットは責任を持って最後まで飼う、自然を汚さないようになるなど、できることから行動してみましょう。10年後、20年後の未来も豊かな生き物たちに出会えるように。

札幌市コールセンター TEL 011-222-4894
(年中無休 午前8時から午後9時まで)

毎日の動物園情報は…
その日の「みんなのドキドキ体験」のメニューなどの
毎日の情報は、こちらでチェック！

MARUYAMA ZOO CHANNEL
ケータイサイトアドレス
<http://www.maruyama-zoo.jp/m/>



料金	大人年間パスポート	1,000円
	大人(高校生以上)	600円
	団体(30名以上)	540円
	小人(中学生以下)	無料
	駐車料金 普通車	1回700円

開園時間	2月1日～10月31日	11月1日～1月31日
	午前9時～午後5時	午前9時～午後4時
	休園日:12月29日～31日のみ	

飼育動物数	53種	320点
鳥	61種	218点
は虫類	45種	164点
両生類	15種	106点
総計	174種	808点

さっぽろ市
03-G04-12-271
24-3-147

●氏名:札幌市円山動物園 国長 見上 雄一 ●事業所の名称:札幌市円山動物園 ●事業所の所在地:札幌市中央区宮ヶ丘3番地1 ●動物取扱業の種別(登録番号):展示(札健動セ登録第437号)、販売(札保動セ登録第1081号)、保管(札保動セ登録第1082号)、貸出(札保動セ登録第1083号)、訓練(札保動セ登録第1084号) ●登録年月日:平成19年5月21日(展示)、平成24年5月21日(販売、保管、貸出、訓練) ●有効期間の末日:平成29年5月20日(展示、販売、保管、貸出、訓練) ●動物取扱責任者:柴田 千賀子